

2017 年度(平成 29 年度)事業報告書

〔 自 2017 年(平成 29 年)4 月 1 日
至 2018 年(平成 30 年)3 月 31 日 〕

当財団は、「産業、経済、文化の発展に貢献する科学技術、芸術等を中心とする分野で著しい貢献をした者の顕彰、研究又は普及啓発に対する助成等を通じてその促進を図ると共に国際相互理解の増進に努め、もって社会の啓発に貢献し、人類の平和と繁栄に寄与する。」ことを目的として、1984年(昭和59年)4月12日に設立された。

1985 年(昭和 60 年)に第 1 回京都賞授賞式、第 1 回研究助成金贈呈式を開催し、事業を開始した。また、2011 年(平成 23 年)4 月 1 日に公益財団法人の認定を受け、新公益法人制度に基づいた運営を開始した。

2017 年度事業計画（概要）

I. 顯彰事業

1. 第32回(2016)京都賞関連行事「Kyoto Prize at Oxford」(英国オックスフォード)の支援
 2. 第33回(2017)京都賞の審査および受賞者の決定
- | | | |
|------|---------|---------------------|
| 対象分野 | 先端技術部門 | : エレクトロニクス |
| | 基礎科学部門 | : 生物科学(進化・行動・生態・環境) |
| | 思想・芸術部門 | : 音楽 |

第33回(2017)京都賞授賞式および関連行事の開催

第33回(2017)京都賞関連行事「京都賞シンポジウム」(米国サテライト校)の支援

3. 第34回(2018)京都賞候補者推薦の受付および審査選考の開始
4. 第35回(2019)京都賞授賞対象分野および審査機関委員の決定

II. 助成事業

1. 2017 年度研究助成金贈呈式の開催
2. 2018 年度研究助成の申請受付と助成対象案件の審査および決定
3. 2019 年度研究助成選考委員の決定
4. 2017 年度特別助成対象案件の審査および助成
5. 2018 年度特別助成審査委員の決定
6. 新規助成制度創設に向けた取り組みの開始

Ⅳ. 社会啓発事業

1. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動支援
2. 米国京都賞シンポジウム共催大学への寄附
3. 京都大学「京都こころ会議 (Kokoro Initiative)」への寄附
4. 京都大学「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」への寄附
5. 財団主催のサイエンスフェスタ定期開催に向けた取り組みの開始

I. 顕彰事業

1. 第 32 回 (2016) 京都賞に関する事項

(1) 英国オックスフォード大学主催「Kyoto Prize at Oxford」の開催支援

2017 年 5 月 9 日、10 日の 2 日間、第 32 回 (2016) 京都賞受賞者を迎えて開催された英国オックスフォード大学が主催する「Kyoto Prize at Oxford」を支援し、英国から、欧州及び世界に向けて京都賞を発信した。

2. 第 33 回 (2017) 京都賞に関する事項

(1) 京都賞審査機関による審査

国内、海外の有識者より推薦された候補者について、2016 年度に開催された各部門専門委員会及び審査委員会に引き続き、京都賞委員会を開催し、受賞候補者の審査を行った。

(2) 受賞者の決定と発表

2017 年 6 月 16 日開催の定時理事会において、第 33 回 (2017) 京都賞受賞者を下記 3 氏に決定し、同日の記者会見にて発表した。

① 先端技術部門受賞者

三村 高志 博士 (Takashi Mimura)

職 業：半導体工学者

株式会社富士通研究所 名誉フェロー

情報通信研究機構 未来 ICT 研究所 統括特別研究員

国 籍：日本

贈賞理由：

「高電子移動度トランジスタの発明とその開発による情報通信技術の発展への貢献」
2 種類の半導体を積層化した新構造の「高電子移動度トランジスタ (HEMT)」を発明し、伝導層内の電子移動度が高くなるため優れた高周波特性を持つことを示した。この発明により、情報通信技術の発展に大きく貢献するとともに、極薄伝導層内の電子の物性研究の進展にも寄与した。

② 基礎科学部門受賞者

グレアム・ファーカー 博士 (Graham Farquhar)

職 業：植物生理学者

オーストラリア国立大学 特別教授

国 籍：オーストラリア

贈賞理由：

「光合成の機能モデルの開拓と地球環境変化の科学への貢献」
光合成の炭素同化反応の機能モデルを開発することで、植生と大気の間での二酸

化炭素交換の環境応答が予測できるようにし、加えて光合成や蒸散における炭素と酸素の安定同位体が分別される反応の数値モデルを開発して、環境科学と気候変動科学の発展に寄与してきた。

③思想・芸術部門受賞者

リチャード・タラスキン 博士 (Richard Taruskin)

職 業：音楽学者

カリフォルニア大学バークレー校 名誉教授

国 籍：アメリカ

贈賞理由：

「音楽史研究と批評を通じて基本概念や作曲家像を決定的に更新し、音楽観の変革を促してきた知の巨人」

従来の歴史記述の方法を乗り越えた斬新な音楽史研究と、該博な知識に裏打ちされた先鋭的な批評によって、西洋の音楽文化に新たな次元を切り拓いてきた。他の追随を許さないその仕事は、音楽において言論が創造的価値を持つことを示し、音楽の世界に大きな足跡を残した。

(3) 京都賞審査機関委員の公表

受賞者の発表に併せて、第 33 回(2017)京都賞審査機関委員を下記の通り公表した。
(役職は公表時現在)

[京都賞委員会]

中西 重忠 (委員長) 京都大学 名誉教授

甘利 俊一 理化学研究所 脳科学総合研究センター 特別顧問

巖佐 庸 九州大学 大学院理学院 教授

梶山 千里 福岡女子大学 理事長・学長

柳 裕之 豊田工業大学 学長

佐藤 文隆 京都大学 名誉教授

長木 誠司 東京大学 大学院総合文化研究科 教授

野依 良治 科学技術振興機構 研究開発戦略センター センター長

本庶 佑 京都大学 高等研究院 特別教授

森 重文 京都大学 高等研究院 院長・特別教授

鷲田 清一 京都市立芸術大学 理事長・学長

[審査委員会]

①先端技術部門

柳 裕之 (委員長) 豊田工業大学 学長

石原 直 東京大学 名誉教授

北山 研一 光産業創成大学院大学 特任教授

筒井 哲夫 九州大学 名誉教授

土井 美和子 情報通信研究機構 監事

鳥海 明 東京大学 大学院工学系研究科 教授
萩本 和男 N T Tエレクトロニクス(株) 代表取締役社長
横山 直樹 (株)富士通研究所 フェロー

②基礎科学部門

巖佐 庸 (委員長) 九州大学 大学院理学研究院 教授
浅見 崇比呂 信州大学 学術研究院理学系 教授
上田 恵介 立教大学 名誉教授
加藤 真 京都大学 大学院人間・環境学研究科 教授
北島 薫 京都大学 大学院農学研究科 教授
颯田 葉子 総合研究大学院大学 先端科学研究科 教授
仲岡 雅裕 北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授
長谷川 真理子 総合研究大学院大学 学長

③思想・芸術部門

長木 誠司 (委員長) 東京大学 大学院総合文化研究科 教授
浅岡 寿雄 (公財)パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会
理事・企画運営推進会議委員
北中 正和 音楽評論家
小沼 純一 早稲田大学 文学学術院 教授
近藤 譲 昭和音楽大学 教授
徳丸 吉彦 聖徳大学 音楽学部 教授
中村 透 琉球大学 名誉教授
望月 京 明治学院大学 文学部 教授

[専門委員会]

①先端技術部門

横山 直樹 (委員長) (株)富士通研究所 フェロー
上田 大助 京都工芸繊維大学 グリーンイノベーションセンター 特任教授
大野 英男 東北大学 電気通信研究所 所長・教授
谷口 研二 大阪大学 名誉教授
野田 進 京都大学 大学院工学研究科 教授
波多野 睦子 東京工業大学 工学院 教授
原 勉 浜松ホトニクス(株) 常務取締役
平本 俊郎 東京大学 生産技術研究所 教授

②基礎科学部門

長谷川 真理子 (委員長) 総合研究大学院大学 学長
嶋田 正和 東京大学 大学院総合文化研究科 教授
高村 典子 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター フェロー
中静 透 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 特任教授

長谷部 光泰 自然科学研究機構 基礎生物學研究所 教授
松田 裕之 横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授
馬渡 峻輔 北海道大学 名誉教授
矢原 徹一 九州大学 大学院理學研究院 教授

③思想・芸術部門

近藤 譲（委員長） 昭和音楽大学 教授
伊東 信宏 大阪大学 大学院文学研究科 教授
柿沼 敏江 京都市立芸術大学 音楽学部 教授
ヘルマン・ゴチェフスキ 東京大学 大学院総合文化研究科 教授
細川 周平 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター 教授
毛利 嘉孝 東京藝術大学 大学院国際芸術創造研究科 教授
森岡 実穂 中央大学 経済学部 准教授
横井 一江 音楽ジャーナリスト

3. 第33回(2017)京都賞授賞式及び関連行事の開催

(1) 受賞者歓迎レセプション

日 時：2017年11月9日（木）18:30
場 所：京都ホテルオークラ
主 催：京都府、京都市、稲盛財団
貴 賓：高円宮妃久子殿下（稲盛財団名誉総裁）
リチャード・コート 駐日オーストラリア大使
内 容：受賞者の入洛を歓迎し、レセプションを開催した。

(2) 第33回(2017)京都賞授賞式

日 時：2017年11月10日（金）15:00
場 所：国立京都国際会館 大会議場
貴 賓：高円宮妃久子殿下（稲盛財団名誉総裁）
受 賞 者：三村 高志 博士（先端技術部門）
グレアム・ファーカー 博士（基礎科学部門）
リチャード・タラスキン 博士（思想・芸術部門）
出席要人：リチャード・コート 駐日オーストラリア大使
カレン・ケリー 駐大阪・神戸アメリカ合衆国総領事
大串 正樹 経済産業大臣政務官
大使・総領事関係者 27 名
国会議員関係者 6 名
学術・文化機関の長 25 名
出席者数：1,250 名
祝 辞：ドナルド・J・トランプ アメリカ合衆国大統領

マルコム・ターンブル オーストラリア首相

安倍 晋三 内閣総理大臣

内 容：高円宮妃久子殿下ご臨席のもと、国内及び海外から多くの招待者を迎え授賞式を開催した。式典では、井村裕夫会長から受賞者へ京都賞メダルとディプロマ、賞金 5,000 万円が贈られ、受賞者は受賞にあたってのスピーチを行った。また、内閣総理大臣と受賞国代表者から祝辞が寄せられ、受賞者の栄誉を讃えた。

(3) 晩餐会

日 時：2017 年 11 月 10 日（金）18:15

場 所：グランドプリンスホテル京都

貴 賓：高円宮妃久子殿下（稲盛財団名誉総裁）

出席者数：729 名

内 容：授賞式に続いて、高円宮妃久子殿下ご臨席のもと晩餐会を開催し、多くの出席者が受賞者を祝福した。

(4) 記念講演会

日 時：2017 年 11 月 11 日（土）13:00

場 所：国立京都国際会館 大会議場

出席者数：750 名

演 題：「トランジスタと歩んだ半世紀」 三村 高志 博士

「マジカル・ミステリー・ツアー：

物理学・応用数学から植物生理学へ」 グレアム・ファーカー 博士

「思い通りの人生/思いがけない人生」 リチャード・タラスキン 博士

内 容：受賞者が上記のテーマで講演を行い、自らの研究や創作を通じて培われた人生観や世界観を披露した。

後 援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、大学コンソーシアム京都、京都新聞、朝日新聞社、産経新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、共同通信社、時事通信社、NHK、KBS 京都、エフエム京都

(5) 和輪庵夕食会

日 時：2017 年 11 月 11 日（土）18:30

場 所：和輪庵

内 容：受賞者と受賞者家族を囲んで、懇親夕食会を開催した。

(6) ワークショップ

日 時：2017 年 11 月 12 日（日）

場 所：国立京都国際会館、東京藝術大学

内 容：部門ごとに、受賞者による講演、研究者や専門家による講演等を行った。

後 援：京都府、京都市、NHK

①先端技術部門「化合物半導体電子デバイス：発展の経緯と未来」

出席者数：80 名

協 賛：応用物理学会、電気学会、電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ
日本学術振興会産学協力第 151 委員会、日本物理学会、
IEEE EDS Japan Chapter

②基礎科学部門「植物の生き方を知り地球環境の変化を予測する」

出席者数：100 名

協 賛：個体群生態学会、種生物学会、日本光合成学会、日本作物学会、
日本植物学会、日本植物生理学会、日本数理生物学会、日本生態学会、
日本地球惑星科学連合

③思想・芸術部門「ストラヴィンスキーのオペラ《マヴラ》～レクチャーと上演」

出席者数：140 名

共 催：東京藝術大学 音楽学部

協 賛：日本アルバン・ベルク協会、日本音楽学会、日本ロシア文学会、美学会

(7) 鹿児島での関連行事

「京都賞受賞者 鹿児島講演会」の開催協力

開 催 日：2017 年 11 月 16 日（木）

場 所：宝山ホール（鹿児島県文化センター）

出席者数：1,500 名

主 催：京都賞受賞者講演会実行委員会

内 容：鹿児島県、鹿児島市、鹿児島大学および鹿児島商工会議所が主体となって
組織された「京都賞受賞者講演会実行委員会」による講演会の開催に協力し
た。併せて、社会啓発事業における青少年育成の観点から、世界の知性に触
れる機会を提供することを目的に、鹿児島県離島の高校より計 8 校 251 名
の高校生を講演会へ招待した。

(8) 広報

①テレビによる報道

授賞式は KBS（京都放送）、NHK、MBS（毎日放送）、BS ジャパン、記念講演会は
KBS により、その模様が報道された。BS ジャパンは全国、それ以外は関西で放送され
た。また、鹿児島講演会は KYT（鹿児島読売テレビ）により、その模様が鹿児島で報道
された。

②新聞・雑誌等による報道

全国紙をはじめ通信社や雑誌、海外マスコミによる取材があり、授賞式およびその他の
関連記事が国内外で多数掲載された。（海外でも WEB 中心に京都賞行事が紹介され
た。）また、京都新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞において、京都賞受
賞者の特集記事が掲載された。東京で開催した思想・芸術部門のワークショップについ

ては、『レコード芸術』1月号（音楽之友社）、『すばる』3月号（集英社）、『音楽現代』3月号（芸術現代社）において、特集記事が掲載された。

（９）京都賞を周知する広告展開

京都賞への集客を目的として、下記の通り広告を展開した。

①屋外広告

- ・2017年11月1日から11月17日までの期間、京都の幹線道路、烏丸通りのJR京都駅から丸太町通りに至る3.5kmの区間と、京都賞の主会場となった国立京都国際会館の専用道路の街灯110ヶ所に、京都賞の開催を告げる京都賞街灯バナーを掲出した。
- ・商業施設壁面を利用した大型サインシートを掲出した。
- ・京都駅地下鉄構内24面、京都駅八条口南エリア8面、京都市営地下鉄「国際会館駅」8面に、デジタルサイネージ（映像等の電子看板）を掲載した。
- ・JR西日本トレインチャンネル（京都・大阪・兵庫・滋賀・奈良・和歌山）の広告用モニターに、紹介映像を1週間掲出した。

②新聞広告および印刷物

- ・京都新聞に、「記念講演会募集」5段カラー広告を掲載した。
- ・記念講演会および各ワークショップのポスター、チラシを作成した。

③ウェブサイト

- ・公式ウェブサイト「京都賞」にて、記念講演会応募の特別サイトを作成した。

④映像制作

- ・京都賞授賞式、記念講演会、受賞者インタビュー映像を、それぞれ日本語版、英語版で公開した。
- ・京都賞の紹介映像を、日本語版、英語版で作成した。

（10）米国での関連行事

「2018年京都賞シンポジウム」の開催協力

開催日：2018年3月20日（火）～22日（木）

場所：カリフォルニア州サンディエゴ市

出席者数：1,500名

主催：京都賞シンポジウム組織

共催：サンディエゴ州立大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校、
サンディエゴ大学、ポイント・ロマ・ナザレン大学、稲盛財団

内容：第33回京都賞受賞者による講演会及び慈善晩餐会の開催に協力した。

4. 第 34 回(2018)京都賞に関する事項

(1) 京都賞審査機関委員の委嘱

2017 年 3 月 10 日開催の定時理事会において選任された第 34 回(2018)京都賞審査機関委員に対し、2017 年 11 月 11 日開催の第 34 回(2018)京都賞審査機関合同会議において正式に委嘱を行った。

(2) 推薦依頼書の発送

申請者の利便性の向上と、受付業務の軽減および標準化を目的として本年より導入したウェブ申請システムによる推薦依頼を、2017 年 6 月 22 日、推薦依頼方針に基づき、国内、海外の有識者に対してメールにて送信した。また、当該システム外となる書面による推薦依頼書を、2017 年 6 月 30 日、郵送にて発送した。

(3) 推薦の受付

2017 年 9 月 14 日をもって推薦書の受付を締め切った。

(4) 京都賞審査機関による審査

各部門専門委員会を計 12 回、審査委員会を計 5 回開催した。

(審査委員会 1 回と京都賞委員会については 2018 年度に開催)

(5) 賞金増額の決定

2018 年 3 月 9 日開催の定時理事会において、財団創立 35 年の節目の年を迎えるにあたり、第 34 回(2018)京都賞より、賞金額を 1 賞あたり 5,000 万円から 1 億円に増額することを決定した。

5. 第 35 回(2019)京都賞に関する事項

(1) 授賞対象分野の決定

2018 年 3 月 9 日開催の定時理事会において、第 35 回(2019)京都賞授賞対象分野を次の通り決定した。

先端技術部門 : 材料科学

Materials Science and Engineering

基礎科学部門 : 地球科学・宇宙科学

Earth and Planetary Sciences, Astronomy and Astrophysics

思想・芸術部門 : 映画・演劇

Theater, Cinema

(2) 京都賞審査機関委員の決定

2018 年 3 月 9 日開催の定時理事会において、第 35 回(2019)京都賞審査機関委員を選任した。

Ⅱ. 助成事業

1. 2017 年度研究助成に関する事項

(1) 2017 年度研究助成金贈呈式の開催

開 催 日：2017 年 4 月 22 日（土）14:00

場 所：グランドプリンスホテル京都

出席者数：140 名

内 容：2017 年 3 月 10 日の定時理事会において承認された 50 件に対し、総額 5,000 万円の贈呈を行った。また贈呈式に引き続いて、2017 年度盛和スカラースソサエティ総会が開催され、大阪大学 社会経済研究所 教授 大竹文雄氏が「利他性と互惠性の経済学」というテーマで講演を行った。

※附属明細 1「2017 年度研究助成対象者並びに研究題目」を参照

2. 2018 年度研究助成に関する事項

(1) 募集要項の発送

2017 年 5 月下旬に、全国国立大学法人、公立大学（選抜）、私立大学（選抜）、大学共同利用機関法人・その他研究機関（選抜）の合計 141 大学・機関宛に対して研究助成募集要項と申請書を発送した。

(2) 応募の締切

2017 年 7 月 25 日をもって申請書の受付を締め切り、630 件の応募を得た。この応募分について、各委員による予備選考を行った。

(3) 研究助成選考委員会による選考

2017 年 12 月 2 日と 12 月 9 日に研究助成選考委員会を開催し、50 件 5,000 万円の助成対象者を選考した。

(4) 研究助成対象者の決定と発表

2018 年 3 月 9 日開催の定時理事会において、2018 年度研究助成対象者及び助成金額を決定し、プレス発表を行った。

※附属明細 2「2018 年度研究助成対象者並びに研究題目」を参照

(5) 研究助成選考委員の公表

助成対象者の発表に併せて、2018 年度研究助成選考委員を下記の通り公表した。
(役職は公表時現在)

村上 正紀（委員長） 学校法人立命館 理事補佐

[自然科学系]

巖佐 庸	九州大学 大学院理学研究院 教授
岡田 清孝	龍谷大学 農学部 教授
梶山 千里	福岡女子大学 理事長・学長
片岡 一則	(公財)川崎市産業振興財団 副理事長
榊 裕之	豊田工業大学 学長
佐藤 文隆	京都大学 名誉教授
中西 重忠	京都大学 名誉教授
西田 栄介	京都大学 大学院生命科学研究科 教授
野田 進	京都大学 大学院工学研究科 教授
本庶 佑	京都大学 高等研究院 特別教授
森 重文	京都大学 高等研究院 院長・特別教授
安浦 寛人	九州大学 理事・副学長

[人文・社会科学系]

佐和 隆光	滋賀大学 特別招聘教授
田中 成明	京都大学 名誉教授
山室 信一	京都大学 名誉教授
横山 俊夫	静岡文化芸術大学 学長
鷲田 清一	京都市立芸術大学 理事長・学長

3. 2019 年度研究助成に関する事項

(1) 研究助成選考委員の決定

2018 年 3 月 9 日の定時理事会において、2019 年度研究助成選考委員を選任した。

4. 2018 年度特別助成に関する事項

(1) 特別助成審査委員の決定

2018 年 3 月 9 日の定時理事会において、2018 年度特別助成審査委員を選任した。

5. 新しい研究助成事業に関する事項

(1) 新規助成制度創設に向けた取り組みの開始

現在の応用偏重の研究予算のあり方に一石を投じるべく、基礎科学の研究に対して、長期にわたる助成を行う新しい研究助成制度の創設準備を開始した。

Ⅲ. 社会啓発事業

1. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動支援

2017年9月14日（木）、米国オハイオ州のケースウェスタンリザーブ大学で開催された2017年稲盛倫理賞の副賞として日本人形を贈り、同センターの活動を支援した。

2. 米国京都賞受賞者シンポジウム共催大学への寄附

2015年より再度4年間の寄附継続を合意した京都賞シンポジウム共催4大学に対し、第3回20万ドル（1校あたり5万ドル）の寄附を実施した。（4年間で4大学総額80万ドルを寄附予定）

3. 京都大学「京都こころ会議（Kokoro Initiative）」への寄附

京都大学が、同大学こころの未来研究センターを中心に開催する「京都こころ会議（Kokoro Initiative）」への活動支援として、第3回1,500万円の寄附を実施した。（6年間で総額9,000万円を寄附予定）

4. 京都大学「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」への寄附

京都賞に対する社会の期待と関心を高めるとともに、学術・芸術の振興に寄与し、併せて京都大学と当財団の協力関係を強化することを目的として、2017年7月1日、2日の2日間にわたり、京都大学百周年時計台記念館にて、京都大学との共催による「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」を実施した。また、2017年7月、再調印した寄附覚書に基づき、第1回2,000万円の寄附を実施した。（4年間で総額8,000万円を寄附予定）

5. 鹿児島県喜界中学校への寄附

2017年9月、鹿児島県喜界島を襲った豪雨で、学校図書館が水浸しになり、蔵書の大半を失った喜界中学校より、財団宛に支援依頼があったのを受け、同年10月、喜界中学校に対して蔵書購入代金400万円の寄附を実施した。

6. 財団主催のサイエンスフェスタ定期開催に向けた取り組みの開始

小学校低学年以上の市民を対象に、様々な実験や体験を通して科学に親しみを感じる機会を提供するイベント「サイエンスフェスタ（仮称）」の実施に向けて、企画・準備を開始した。

7. ハンブルク・バレエ団 京都公演への特別協賛および特別ワークショップの開催

2018年2月17日（土）、ロームシアター京都にて開催されたハンブルク・バレエ団京都公演を特別協賛するとともに、その関連企画として、2018年2月14日（水）、同バレエ団による特別ワークショップを、ロームシアター京都サウスホールにて開催した。本ワークショップには、京都および京都近郊のバレエ教室から、抽選で決定した40名の中学生・高校生の受講者が参加し、併せて、バレエ講師など100名が見学した。また、京都賞受賞者であるジョン・ノイマイヤー氏のご厚意により、2018年2月16日（金）、京都公

演前日のリハーサルに、ワークショップに参加できなかったバレエ教室の生徒を含む、バレエ講師など 170 名を無料招待した。

IV. その他の活動

1. 会議の開催状況

理事会、評議員会を下記の通り開催し、全ての議案が原案通りに承認された。

(1) 理事会

日 時 2017 年 5 月 29 日 (月)

議 案 ・ 2016 年度(平成 28 年度)事業報告及び決算報告の件
・ 定時評議員会開催の件

日 時 2017 年 6 月 16 日 (金)

議 案 ・ 第 33 回(2017)京都賞受賞者承認の件
・ 評議員会規則改正の件
・ 理事会規則改正の件
・ 役付役員選任の件
・ 京セラ株式会社第 63 期定時株主総会議決権行使の件
報告事項 ・ 代表理事・業務執行理事の業務執行報告の件
・ サンディエゴでの第 16 回(2017)京都賞シンポジウム開催の件
・ 英国オックスフォード大学での
第 1 回「Kyoto Prize at Oxford」開催の件
・ ケースウエスタンリザーブ大学「2017 年稲盛倫理賞」受賞者決定の件
・ 第 4 回「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」(KUIP)開催の件
・ 主要日程の件

日 時 2018 年 3 月 9 日 (金)

議 案 ・ 第 34 回(2018)京都賞審査に係わる委員変更の件
・ 第 35 回(2019)京都賞授賞対象分野の件
・ 第 35 回(2019)京都賞審査に係わる委員選任の件
・ 2018 年度研究助成対象者並びに助成金額承認の件
・ 2019 年度研究助成選考に係わる委員選任の件
・ 2018 年度特別助成審査に係わる委員選任の件
・ 京都賞賞金増額の件
・ 京都賞顕彰規程改定の件
・ 2018 年度(平成 30 年度)事業計画及び収支予算の件
・ 定時評議員会開催の件(2018 年 6 月)

- 報告事項
- ・代表理事・業務執行理事の業務報告の件
 - ・第34回(2018)京都賞推薦状況報告の件
 - ・ハンプルク・バレエ団京都公演およびワークショップ開催の件
 - ・第11回稲盛倫理賞受賞者決定の件
 - ・第10回稲盛倫理賞授賞式開催の件
 - ・主要日程の件

(2) 評議員会

- 日時 2017年6月16日(金)
- 議案
- ・2016年度(平成28年度)事業報告及び決算報告の件
 - ・理事・監事選任の件
 - ・評議員の辞任に伴う補欠選任の件
 - ・評議員会規則改正の件
- 報告事項
- ・代表理事・業務執行理事の業務執行報告の件
 - ・サンディエゴでの第16回(2017)京都賞シンポジウム開催の件
 - ・英国オックスフォード大学での
第1回「Kyoto Prize at Oxford」開催の件
 - ・ケースウエスタンリザーブ大学「2017年稲盛倫理賞」受賞者決定の件
 - ・第4回「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」(KUIP)開催の件
 - ・主要日程の件

2. 委員会等の開催状況

(1) 第33回(2017)京都賞の各委員会

開催日	名称	議題
2017.4.1	京都賞思想・芸術部門 第2回審査委員会	候補者審査
2017.4.15	京都賞委員会	各部門受賞者審査

(2) 第34回(2018)京都賞及び2018年度助成事業の各委員会

開催日	名称	議題
2017.11.11	京都賞審査機関合同委員会	審査基本方針決定
2017.12.2	研究助成選考委員会 人文・社会科学系分科会	助成対象者選考
2017.12.9	研究助成選考委員会 自然科学系分科会	助成対象者選考
2018.1.6	京都賞基礎科学部門 第1回専門委員会	候補者審査
2018.1.7	京都賞先端技術部門 第1回専門委員会	候補者審査
2018.1.20	京都賞思想・芸術部門 第1回専門委員会	候補者審査
2018.1.21	京都賞基礎科学部門 第2回専門委員会	候補者審査

2018. 1. 27	京都賞先端技術部門 第 2 回専門委員会	候補者審査
2018. 2. 3	京都賞思想・芸術部門 第 2 回専門委員会	候補者審査
2018. 2. 4	京都賞基礎科学部門 第 3 回専門委員会	候補者審査
2018. 2. 10	京都賞先端技術部門 第 3 回専門委員会	候補者審査
2018. 2. 17	京都賞思想・芸術部門 第 3 回専門委員会	候補者審査
2018. 2. 18	京都賞基礎科学部門 第 4 回専門委員会	候補者審査
2018. 2. 24	京都賞先端技術部門 第 4 回専門委員会	候補者審査
2018. 3. 3	京都賞思想・芸術部門 第 4 回専門委員会	候補者審査
2018. 3. 10	京都賞先端技術部門 第 1 回審査委員会	候補者審査
2018. 3. 17	京都賞思想・芸術部門 第 1 回審査委員会	候補者審査
2018. 3. 18	京都賞基礎科学部門 第 1 回審査委員会	候補者審査
2018. 3. 24	京都賞先端技術部門 第 2 回審査委員会	候補者審査
2018. 3. 31	京都賞思想・芸術部門 第 2 回審査委員会	候補者審査

3. 広報活動

(1) 記者発表の実施

実施日	内容	実施場所／配布先
2017. 4. 14	2017 年度 稲盛財団研究助成金贈呈式・盛和スカラース ソサエティ総会取材のお願い：資料配布	関係記者クラブ
2017. 6. 6	第 33 回京都賞受賞者発表記者会見案内：資料配布	関係記者クラブ
2017. 6. 16	第 33 回京都賞受賞者発表：記者会見	稲盛財団会議室
2017. 7. 31	稲盛財団特別協賛「ハンプルク・バレエ団」2018 年 京都公演：資料配布	関係記者クラブ
2017. 8. 28	第 33 回京都賞ウィーク 記念講演会およびワーク ショップ開催のお知らせ：資料配布	関係記者クラブ
2017. 9. 27	第 33 回京都賞ウィーク行事概要：資料配布	関係記者クラブ
2017. 11. 6	第 33 回京都賞ウィーク取材要項：資料配布	関係記者クラブ
2017. 11. 10	第 33 回京都賞受賞者共同記者会見	国立京都国際会館
2018. 3. 9	稲盛財団研究助成 2018 年度対象者決定：資料配布	関係記者クラブ

(2) 刊行物の発行

下記の刊行物を発行し、関係先に配布した。

発行日	内容	発行部数
2017. 5	稲盛財団ニュース 92 号	5, 200 部
2017. 7	盛和スカラースソサエティ会報 21 号	1, 700 部

2017. 9	稲盛財団ニュース 93 号	4,700 部
2017. 10	The Inamori Foundation Newsletter No.39	3,200 部
2018. 1	稲盛財団ニュース 94 号	5,400 部
2018. 2	The Inamori Foundation Newsletter No.40	3,900 部

(3) 展示物の定期刷新

稲盛財団に関わる展示スペースである京都大学稲盛財団記念館、九州大学稲盛財団記念館、青少年科学センター、ゲストハウス和輪庵、京セラ稲盛ライブラリーの稲盛財団および京都賞の情報を最新版に刷新した。

(4) 新聞広告を用いた京都賞の周知

全国主要紙および地域紙に全面 15 段カラー広告を掲出し、京都賞の認知拡大を試みた。また、京都賞の理念を分かり易く解説した記事体広告として、モノクロ 15 段広告を掲出した。

(5) SNS を用いた情報発信

公式 Facebook ページ「京都賞-Kyoto Prize」において、京都賞や稲盛財団に関連する情報を発信した。(計 58 回) また、Twitter アカウント「KyotoPrize」の試験運用を開始した。

(6) ウェブサイトの運営

稲盛財団および京都賞の公式ウェブサイトを 2016 年 4 月に刷新し、スマートフォンやタブレット端末にも対応するレスポンスデザインを導入。定期的なコンテンツの更新強化と充実を図った。

(7) フォトブックの作成

写真など視覚的要素から読み手に伝わりやすい冊子としてフォトブックを作成した。現在、日本語版と英語版が完成しており、中国語版の制作に着手している。

2017年度助成事業 研究助成対象者並びに研究題目

100万円/件

	対象者	研究題目
自然科学系	京都大学 大学院工学研究科 講師 アオイ シンヤ 青井 伸也	多脚ロボットの分岐を用いた新しい制御法の開発
	名古屋大学 理学部 講師 アゲタ ナツミ 上田 奈津実	空間パターンセパレーションにおける セブチン細胞骨格の役割
	山形大学 農学部 助教 アボシ タカコ 網干 貴子	殺虫ペプチドPA1bに対する鱗翅目幼虫の 適応機構の解明
	新潟大学 理学部 助教 イイダ ミドリ 飯田 碧	水生生物にみられる通し回遊現象の 成立・維持メカニズム
	京都大学 大学院工学研究科 助教 イシイ リョウタ 石井 良太	顕微光音響分光法を用いた 深紫外発光ダイオードにおける非発光過程の可視化
	北海道大学 大学院工学研究院 助教 イソノ タクヤ 磯野 拓也	有機酸塩： 次世代の脂肪族ポリエステル合成触媒システム
	京都大学 大学院理学研究科 講師 イチカワ マサトシ 市川 正敏	ブレブ運動する再構成人工アメーバの創生と 運動メカニズムの解明
	大阪大学 大学院生命機能研究科 助教 イナガキ ミキオ 稲垣 未来男	神経生理と機械学習を組み合わせたアプローチによる 皮質下の視覚情報処理メカニズムの解明
	自然科学研究機構 生理学研究所 助教 オオタニ テツヒサ 大谷 哲久	上皮極性における密着結合の役割の解明
	慶應義塾大学 医学部 講師 オカベ ケイスケ 岡部 圭介	Lrrc33欠損に伴うミクログリアの異常活性化と 精神神経疾患発症との関連
	東北大学 多元物質科学研究所 助教 オニヅカ カズミツ 鬼塚 和光	化学的RNA切断能を持つ人工核酸の開発
	大阪大学 大学院医学系研究科 助教 オマツ ヨシキ 尾松 芳樹	造血幹細胞・前駆細胞ニッチの発生および 機能に必須の新規分子の探索
	佐賀大学 大学院工学系研究科 助教 オヤマダ ジュウゾウ 小山田 重蔵	多環芳香族化合物の簡便な合成法をめざした 炭素－水素結合カップリング反応の開発
	山口大学 大学院創成科学研究科 助教 カワモト タクジ 川本 拓治	反応活性種の精密制御によるバイオマスの有効利用
	立命館大学 総合科学技術研究機構 特別招聘研究教員（准教授） キタバ イクコ 北場 育子	1万5000年前の地球温暖化は、 どこで始まりどう伝わっていったか

	対象者	研究題目
自然科学系	京都工芸繊維大学 大学戦略推進機構系 講師 キタムラ キョウコ 北村 恭子	フォトニック結晶レーザによる 先進的微小集光光源の研究
	静岡県立大学 大学院薬学研究院 助教 クレバヤシ ユウキ 紅林 佑希	ヒト癌細胞における希少シアル酸Neu5Gcの 獲得機構の解明とその制御に関する研究
	東京大学 生産技術研究所 助教 コミヤマ ジュンペイ 小宮山 純平	任意停止時間の最適逐次推論
	東京大学 大学院工学系研究科 助教 シガ タクマ 志賀 拓磨	高効率熱電材料のためのフォノンコヒーレント制御
	金沢大学 医薬保健研究域 准教授 シンミョウ ヨウヘイ 新明 洋平	draxinの神経回路・脳回形成における役割と 分子機構の研究
	東京大学 生産技術研究所 准教授 スナダ ユウスケ 砂田 祐輔	生体・環境に負荷を与えない天然資源の有効活用を 実現する鉄触媒の開発
	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 助教 タカツカ ヒロトモ 高塚 大知	植物の活発な細胞成長の基盤となる極性成長の 分子メカニズムの解析
	京都大学 大学院工学研究科 准教授 タナベ カツアキ 田辺 克明	超高効率太陽電池の実現に向けた単原子層材料を介する 新規高性能半導体接合技術の創出
	東北大学 学際科学フロンティア研究所 助教 ナカジマ ユウイチロウ 中嶋 悠一朗	分裂期スピンドル方向の異常が誘導する 上皮腫瘍形成原理の解明
	高知大学 教育研究部 准教授 ナンバ タクシ 難波 卓司	ミトコンドリアの恒常性を維持する 小胞体-ミトコンドリア情報交換機構の解明
	東京大学 大学院総合文化研究科 助教 ニイ ヨウイチ 新居 陽一	キラリティを有する磁性物質における 一方向熱伝導現象の探索
	北海道大学 大学院医学研究科 教授 ニシウラ ヒロシ 西浦 博	理論進化生物学的手法を活用した感染症の スーパースプレッダーの特定手法の開発
	筑波大学 生命領域学際研究センター 助教 ニシムラ アイコ 西村 亜衣子	マウス表皮幹細胞の老化メカニズムの解明
	名古屋工業大学 大学院工学研究科 助教 ノブカワ ショウゴ 信川 省吾	高分子ガラス中のアゾベンゼンの光異性化に対する 空間場の影響の解明

	対象者	研究題目
自然科学系	名古屋大学 高等研究院 特任助教 ハチヤ タクシ 蜂谷 卓士	アンモニア耐性株を利用した アンモニア毒性メカニズムの解析
	東京理科大学 生命医科学研究所 助教 ハニウダ ケイ 羽生田 圭	B細胞の代謝制御による免疫記憶形成機構の解明
	名古屋工業大学 大学院工学研究科 助教 フチガミ テルアキ 涸上 輝顕	ウニ状ニオブ酸化物ナノ粒子の高機能性触媒
	神戸大学 大学院理学研究科 准教授 マツバラ リョウスケ 松原 亮介	一酸化窒素の超局所的投与を可能にする 実験ツールの開発：神経疾患病理解明へのアプローチ
	山口大学 大学院創成科学研究科 助教 ヤマブキ カズヒロ 山吹 一大	高容量次世代硫黄二次電池の開発
	北海道大学 電子科学研究所 助教 ユスツプ マルコ ユスツプ マルコ	生物資源のロバスト管理のための数理生物学
	東北大学 電気通信研究所 助教 ヨコタ ノブヒデ 横田 信英	InAlGaAs量子井戸における電子スピン緩和機構の解明
	東京大学 大学院理学系研究科 助教 ヨシタネ ヒカリ 吉種 光	A-to-I RNA編集酵素ADAR2がRNAを 質的・量的にリズム制御する
	東京大学 大学院数理科学研究科 准教授 ヨネダ ツヨシ 米田 剛	ナヴィエ・ストークス方程式の爆発問題の解明に向けた 渦の非線形相互作用に対する大規模数値計算
	千葉大学 大学院工学研究科 准教授 ワジマ タカアキ 和嶋 隆昌	月面岩石を用いた新しいセメントの開発
	九州大学 エネルギー基盤技術国際教育研究センター 助教 ワタナベ コウスケ 渡邊 厚介	カルコパイライト型Cu-In-S系化合物の熱電特性
	小計 40件	

	対象者	研究題目
人文・社会科学系	名古屋大学 高等研究院 特任助教 イチカワ アキラ 市川 彰	中米エルサルバドルにおける 先スペイン時代の石製建造物の修復保存に関する 実践的研究
	東京外国語大学 現代アフリカ地域研究センター 講師 オオイシ タカノリ 大石 高典	森林産物交易は森と地域社会をどう変えたか ーアフリカ熱帯雨林の歴史生態学と グローバル・ヒストリー
	横浜市立大学 学術院国際総合科学群 准教授 クロキ マコト 黒木 淳	医療機関の財務健全性の推定と将来予測： 横浜市内医療法人現況報告書を用いた実証分析
	京都大学 大学院法学研究科 准教授 コンドウ ケイスケ 近藤 圭介	スコットランド法理論のグローバル化対応と その国制的背景ー ニール・マコーミックの 法理論と政治活動の統合的考察
	愛媛大学 法文学部 講師 ナカガワ ミライ 中川 未来	近代日本の地域振興と「草の根」の ナショナリズム形成に関する思想史的研究
	九州大学 大学院芸術工学研究院 助教 ニシダ ヒロコ 西田 紘子	学際的アプローチによる弦楽四重奏団の 音楽づくりプロセスの解明
	九州大学 大学院芸術工学研究院 准教授 フジタ ナオコ 藤田 直子	熊本地震の地理空間分析を元にした グリーンインフラの形成に関する研究： ランドスケープ遺産が示すもの
	慶應義塾大学 経済学部 教授 ホシノ タカヒロ 星野 崇宏	消費行動の精緻な理解のためのビッグデータと 公的統計の統計的データ融合
	一橋大学 経済研究所 講師 マスダ カズヤ 増田 一八	アフリカにおける乳幼児の栄養不良改善と認知機能の 向上：ミクロ計量経済学の手法を用いた実証研究
	東京工業大学 環境・社会理工学院 助教 ミヤモト アキコ 宮本 明子	国内映画台本のアーカイブ化に向けた基礎的研究
		小計 10件
		合計 50件

※所属・役職は、贈呈式時

2018年度助成事業 研究助成対象者並びに研究題目

100万円/件

	対象者	研究題目
自然科学系	情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 助教 イシカワ アサノ 石川 麻乃	季節性繁殖の多様性を生む原因変異とその生態学的機能の解析
	鳥取大学 農学部 准教授 イワサキ タカシ 岩崎 崇	アグロバクテリウムに頼らない植物ゲノム編集技術の開発
	神戸大学 大学院保健学研究科 特命助教 ウツボ チエ 靱 千恵	インドネシア産植物に含まれるフェノール性水酸基化合物からの新規肝炎ウイルス治療薬シーズの探索
	大阪大学 大学院工学研究科 助教 ウマコシ タカユキ 馬越 貴之	白色ナノ光源によるプラズモン伝播超集束光学顕微鏡の開発
	九州大学 大学院工学研究院 助教 オダ ユカリ 織田 ゆかり	水界面特性制御に向けたポリビニルエーテルグラフト層の創製
	東京工業大学 生命理工学院 助教 カドノソノ テツヤ 門之園 哲哉	化学合成可能な新規フラグメント抗体M _{VH} の創製
	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 助教 カナヤマ マサシ 金山 剛士	炎症促進的な造血前駆細胞を標的とした新規抗炎症療法の開発
	山梨大学 大学院総合研究部 助教 カネモト ダイスケ 兼本 大輔	モバイル超音波診断装置の為のサブナイキスト・サンプリング技術を活用した集積回路
	東京理科大学 基礎工学部 助教 カミムラ マサオ 上村 真生	多臓器転移がんの4次元追跡を可能とするイメージングナノ粒子の開発
	大阪大学 微生物病研究所 助教 カワモト シンペイ 河本 新平	組織内の老化細胞除去における宿主免疫系の役割の解明
	自然科学研究機構 基礎生物学研究所 助教 キムラ ユキコ 木村 有希子	移動運動の速度変化に伴う脊髄運動系神経回路の切り替えを制御する脊髄ニューロンの解析
	お茶の水女子大学 基幹研究院 准教授 クドウ カズエ 工藤 和恵	量子多体系における非平衡ダイナミクス:量子情報処理のための基礎研究
	長岡技術科学大学 技学研究院 助教 サカモト モリツグ 坂本 盛嗣	光渦の同軸干渉による高解像度フォトリソグラフィの開発
	九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 助教 サダキヨ マサアキ 貞清 正彰	新規金属交換反応による高安定性ナノ細孔材料の開発

	対象者	研究題目
自然科学系	大阪大学 高等共創研究院 教授 スズキ ケイイチロウ 鈴木 啓一郎	生体内ゲノム編集治療技術の開発
	名古屋大学 大学院理学研究科 講師 スズキ タカユキ 鈴木 孝幸	脊椎動物の体の前後軸パターン形成におけるバウプランの分子実体の解明
	信州大学 学術研究院 テニユアトラック助教 タカシマ セイジ 高島 誠司	ヒト非閉塞性乏精子症の発症・亢進メカニズムの理解と制御
	北海道大学 大学院農学研究院 助教 タカスカ タイチ 高須賀 太一	植物バイオマス利用の実現に向けた昆虫共生細菌の分泌する酵素のプロテオーム解析
	大阪府立大学 大学院工学研究科 准教授 タカハシ ヤスシ 高橋 和	超高Q値のシリコンナノ共振器に原子層状物質を接合した新機能光・電子素子の研究
	東京大学 大学院工学系研究科 准教授 チバ ダイチ 千葉 大地	反強磁性金属薄膜の磁気弾性特性とフレキシブル素子への応用
	東京大学 大学院工学系研究科 助教 デウラ モモコ 出浦 桃子	ナノボイド形成によるシリコン基板上への窒化物半導体の高品質結晶成長
	立命館大学 生命科学部 助教 ナカオ シュウ 中尾 周	アスリートに発生する不整脈の分子基盤：時計遺伝子の関与
	広島大学 原爆放射線医科学研究所 助教 ナガマチ アキコ 長町 安希子	周辺骨髄細胞のサイトカイン反応性低下が骨髄異形成症候群を発症させる仮説の検証
	京都大学 大学院医学研究科 特定助教 ナカムラ トモノリ 中村 友紀	霊長類多能性幹細胞と初期分化細胞のキメラ胚作製による厳密な機能評価法の確立
	情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 助教 ナツメ トヨアキ 夏目 豊彰	「オーキシンドェグロン法」を用いてSMC複合体の多様な役割とその異常に起因する疾患の分子機構を探索
	東京大学 生産技術研究所 准教授 ノムラ マサヒロ 野村 政宏	弾道フォノニクスの学理構築と高度な熱伝導制御技術の創出
	北海道大学 大学院理学研究院 准教授 ハママキ ナオ 浜向 直	完全非線形偏微分方程式の境界値問題の解析と応用
	東京大学 大学院理学系研究科 助教 ヒライワ テツヤ 平岩 徹也	上皮組織の能動的な形態形成を実現する数理モデルの発展と検証

	対象者	研究題目
自然科学系	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 助教 フジムラ アツシ 藤村 篤史	次世代ホウ素中性子捕捉療法に向けたホウ素バイオ医薬品の開発
	神戸大学 大学院農学研究科 准教授 フジモト リョウ 藤本 龍	シロイヌナズナにおける後成遺伝学的な雑種強勢発現機構の解明
	大阪市立大学 大学院理学研究科 准教授 フチカワ タロウ 涸側 太郎	社会性昆虫を用いた集団形成による概日行動リズムの安定化効果の解明
	関西学院大学 理工学部 准教授 ホウジョウ マサル 北條 賢	個体の意思決定メカニズムが相利共生のダイナミクスに与える影響
	京都大学 高等研究院 准教授 ホリケ サトシ 堀毛 悟史	金属－有機水素化物による大気中超微量二酸化炭素の補足
	静岡大学 情報学部 助教 マスザワ トモアキ 増澤 智昭	半導体ダイヤモンドを用いた高感度中性子センサの開発
	筑波大学 数理解物質系 助教 マツオカ リョウタ 松岡 亮太	分子鎖の撚りあわせを駆使した可変柔軟性ナノシートの創製
	京都大学 大学院医学研究科 助教 ミズタ コウタロウ 水田 恒太郎	<i>In vivo</i> 慢性イメージングによるアルツハイマー病における海馬神経回路機能破綻の機序解明
	名古屋大学 大学院理学研究科 助教 ミツイシ イクユキ 三石 郁之	世界初高感度X線偏光観測衛星IXPE搭載用受動型熱制御素子の開発
	京都大学 大学院医学研究科 特定助教 ムラタ コウイチ 村田 浩一	低酸素における破骨細胞分化促進機構の解明と関節リウマチに対する新たな治療薬の開発応用
	熊本大学 大学院先端機構 准教授 ヤマグチ トモヤ 山口 知也	ROR1による生体膜ダイナミクス制御機構の解明
	北海道大学 大学院薬学研究院 講師 ワタナベ ミズキ 渡邊 瑞貴	細胞膜透過性を付与した配座制御型オリゴペプチドによる細胞内タンパク質の機能制御
	小計 40件	

	対象者	研究題目
人文・社会科学系	京都市立芸術大学 音楽学部 講師 イケガミ ケンイチロウ 池上 健一郎	18世紀後半のドイツにおける「描く音楽」の研究：古典派時代の多角的な音楽文化の解明へ向けて
	九州大学 大学院人文科学研究院 講師 イマイ ヒロマサ 今井 宏昌	第一次世界大戦期久留米における俘虜収容所とドイツ兵：地域からのグローバル・ヒストリー
	金沢大学 人間社会研究域 准教授 ウエダ ヒサオ 上田 長生	加賀藩領社会の構造と運営に関する基礎的研究―地域指導者層十村の職務と機能―
	早稲田大学 社会科学総合学術院 教授 オイカワ コウキ 及川 浩希	資源再配分を通じた金融緩和の経済成長効果についての研究
	京都大学 野生動物研究センター 特定助教 カワカミ フミト 川上 文人	笑顔の進化と発達に関する比較認知発達科学
	大阪大学 大学院法学研究科 准教授 サカグチ カズシゲ 坂口 一成	中国のフォーマルな法的サービスの供給における基層法的サービス従事者の役割と位置づけをめぐる実証的研究
	横浜市立大学 国際総合科学部 准教授 セタ マコト 瀬田 真	国際海洋法におけるプライベート・スタンダードの機能：ISO規格に着目して
	学習院大学 経済学部 准教授 タカハシ リョウ 高橋 遼	開発途上国におけるグリーン・エコノミーへの転換戦略：エチオピアの森林を対象とした混合所有制度の社会実験
	島根大学 生物資源科学部 助教 ナカマ ユキコ 中間 由紀子	占領期沖縄地域における生活改善普及事業の方針と実態に関する研究
	東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授 ニシダ フミノブ 西田 文信	史上初のゾンカ語＝日本語＝英語辞典編纂・出版のためのデータベースの構築
		小計 10件
		合計 50件

※所属・役職は、申請時